スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大阪府堺市

自 治 体 名 ： 大阪府堺市
担 当 課 名 ： 学校保健体育課
電 話 番 号 ： 072-340-0316

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

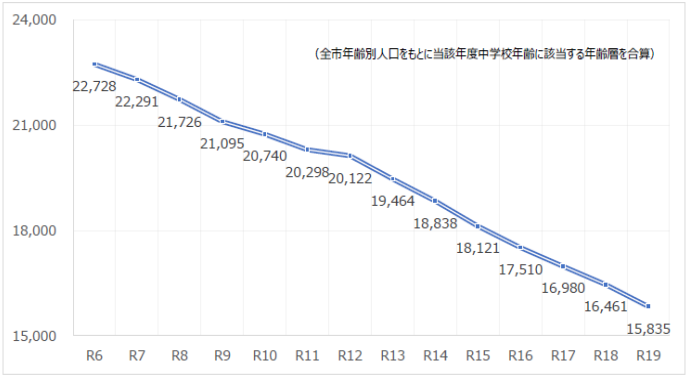
基本情報

面積	149.83 ㎢
人口	803,638 人
公立中学校数	43 校
公立中学校生徒数	19,434 人
部活動数 （運動部活動のみ）	319 部
地域クラブ活動数	16 クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市には中学校が43校あり、生徒数は約2万人であるが、年齢別人口（令和6年5月末現在）をもとに中学校在籍年齢（13歳～15歳）に該当する年齢層を試算したところ（図1参照）、本市においても、全国的な傾向と同様に、当該年齢層の人口が減少傾向にあることが明らかとなった。このことから、将来的には学校単位での部活動の維持が困難となり、部活動数の確保が一層難しくなることが予想される。また、令和7年度における市内中学校の部活動数は、運動部及び文化部を合わせて495部活動であり、部員数は14,968人、入部率は77.6%である（図2参照）。このように、大多数の生徒が何らかの部活動に取り組んでいる一方で、その指導を担う中学校教職員の勤務時間外在校等時間は校種別に見て最も長く、令和6年度において、月80時間を超える教職員の多くが中学校に所属していることが明らかとなった（図3参照）。これらの状況を踏まえ、少子化・教職員の働き方改革及び国の動向を背景に、それぞれのこどもが「学び・成長」を実感できるスポーツ・文化芸術活動の機会を提供することが本市の課題である。

【課題】
現状のままでは学校部活動の持続が困難になることから、学校部活動の教育的意義や良さ等を継承しつつ、子どもや保護者・教職員のニーズを反映させた部活動地域連携・地域展開を進めること。



（図1：堺市中学校在籍年齢（13歳～15歳））

	部員数	入部率	部活動数
運動部	10,695人	55.5%	319部
文化部	4,273人	22.2%	176部
合計	14,968人	77.6%	495部

（図2：市内中学校に設置されている部活動数）

校種	ひとり当たりの年間時間外在校等時間（平均値）	ひと月当たり（平均値）	ひと月 80 時間超教職員数（年間 960 時間超）
幼稚園（38 人）	306 時間 12 分	25 時間 31 分	0 人
小学校（2,789 人）	356 時間 24 分	29 時間 42 分	4 人
中学校（1,583 人）	509 時間 12 分	42 時間 26 分	89 人
高等学校（110 人）	245 時間 12 分	20 時間 26 分	0 人
支援学校（235 人）	246 時間 00 分	20 時間 30 分	0 人
全体（4,755 人）	399 時間 36 分	33 時間 18 分	93 人

（図3：令和6年度ひと月の勤務時間外在校等時間）

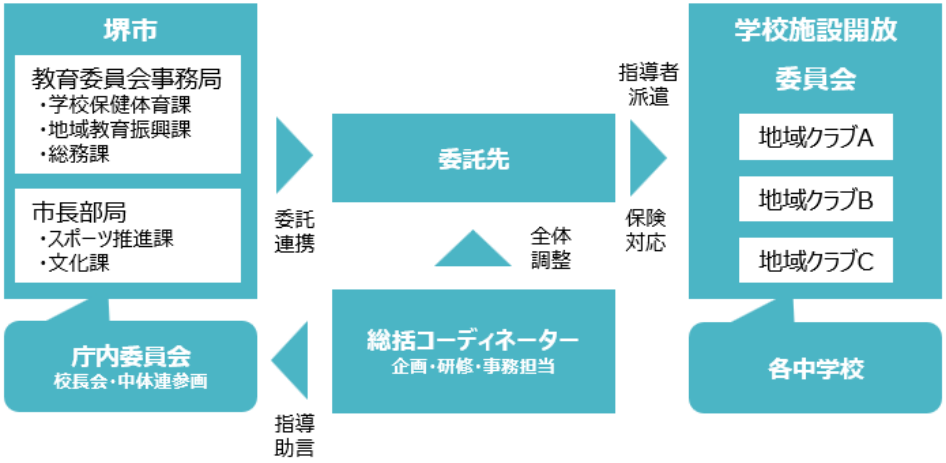
出典:堺市立中学校における部活動地域連携・地域移行の取組状況等報告書

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校保健体育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携など

・地域教育振興課…学校開放事業にかかわる諸対応

・総務課…予算措置など

◉首長部局

・スポーツ推進課…総合型地域スポーツクラブとの連携

◉総括コーディネーター

・企画担当1名、研修担当1名、事務担当1名

年間の事業スケジュール

令和7年4月	・総括コーディネーター任用 ・拠点校部活動開始
令和7年5月	・校長会（小中）説明
令和7年6月	・ボウリング指導イベント開始
令和7年7月	・第9回庁内委員会開催
令和7年8月	・地域クラブモデル校保護者説明会開催 ・トレーナー等指導事業開始
令和7年9月	・地域クラブモデル事業開始 ・連絡ツール導入
令和7年10月	・第10回庁内委員会開催
令和7年12月	・第11回庁内委員会開催 ・サッカー指導教室実施
令和8年1月	・地域クラブモデル校アンケート実施
令和8年2月	・第12回庁内委員会開催
令和8年3月	・「堺市における部活動のあり方の課題整理と解決に向けた具体的取組について」HP掲載

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		16 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		16 クラブ（16 部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0 クラブ
全体の指導者数	51 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
堺市立殿馬場中学校地域クラブ	民間	・軟式野球 ・女子バスケットボール	休日：毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：8 人 2年：12 人	R6.9-R7.2	5 人	1 人 （内、兼務1 人）	なし	部活動
堺市立浜寺南中学校地域クラブ	民間	・軟式野球 ・卓球 ・サッカー	休日：毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：29 人 2年：28 人	R6.9-R7.2	14 人	1 人 （内、兼務1 人）	なし	部活動
堺市立陵南中学校地域クラブ	民間	・軟式野球 ・女子バレーボール	休日：毎月1,2回程度	9-12 or 13-16	1年：24 人 2年：40 人	R6.9-R7.2	4 人	1 人 （内、兼務1 人）	なし	部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- トレーニング等指導：関西大学・大阪リゾート＆スポーツ専門学校・アスリートサポートジャパン・ルネサンス
- サッカースクール：セレッソ大阪
- ボウリング指導イベント：ラウンドワンジャパン

2.実証内容と成果

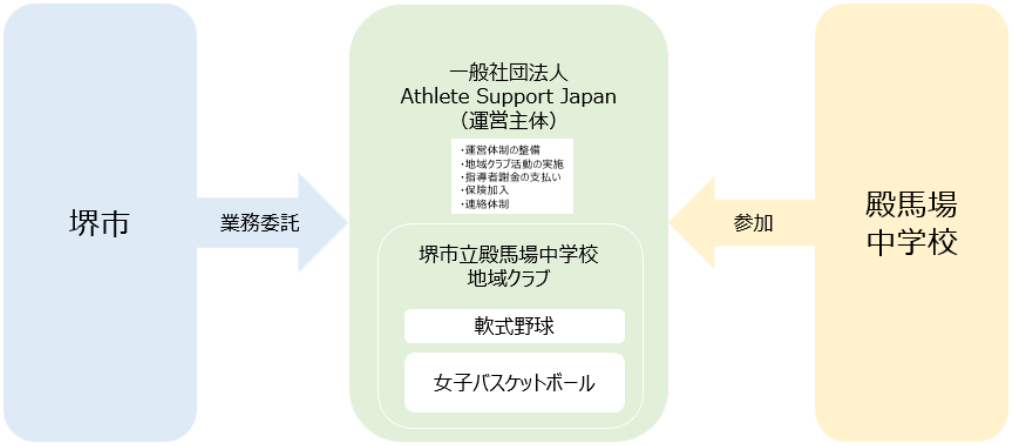
スポーツ庁

主な取組例

●堺市立殿馬場中学校地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	・軟式野球 ・女子バスケットボール
運営団体名	一般社団法人 Athlete Support Japan
期間と日数	・軟式野球：9月22日 ～ 2月8日 月1～2回程度 ・女子バスケットボール： 9月22日 ～ 2月8日 月1～2回程度
指導者の主な属性	民間会社社員、兼職兼業教職員
活動場所	学校グラウンド＆体育館
主な移動手段	徒歩
１人あたりの参加会費等（年額）	なし
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●指導員　51人

役割：生徒への指導等を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

地域スポーツクラブ活動を実施する上で生じる課題を把握し、その解決に向けた方策を体系的に整理するため、「堺市における部活動等のあり方改革計画」を作成することを中心業務とする総括コーディネーター（企画）を1名配置する。また、指導者が人権を尊重し、安全・安心な活動を行うことを目的としたセーフガーディングポリシーのもと、人材育成の仕組みや研修内容、技術・指導力等について、段階に応じた研修体系（「堺クオリティ」）を構築することを中心業務とする総括コーディネーター（研修）を1名配置する。さらに、スポーツ庁、委託業者、学校及び行政、運営団体、地域スポーツ指導者等との円滑な連絡調整を担う総括コーディネーター（事務）を1名配置する。

取組の成果

○企画担当の配置により、担当指導主事等が企画立案した取組事項について、総論的な視点からの指導・助言を受けることが可能となった。また、「具体的取組」の作成に際して、継続的に相談を行う体制が構築された。

○研修担当の配置により、地域クラブ指導に従事する指導者等を対象とした動画研修資料を作成することができた。また、「堺クオリティ」と称する人材育成研修の考え方や研修体系のあり方について検討を進めることができた。

○事務担当の配置により、本事業に係る業務遂行に加え、委託業者や学校との連絡調整、生徒等へのアンケートの実施及び集計について、一連の業務を円滑に進めることができた。

今後の取組における課題

○企画担当による「ICTを活用した動画指導」を次年度に実施する予定としており、試行実施校の選定や実施方法の検討、契約手続等に係る関係者間の調整が必要である。

○研修担当による動画研修資料は、全4シリーズの構成で計画しているが、単なる視聴にとどまらず、テスト形式を導入するなど、研修成果を可視化するための資格取得形式のあり方について検討する必要がある。

課題への対応方針

○総括コーディネーターについては、引き続き「企画」「研修」「事務」の3部門に区分して配置する体制とする。

○協議会の発足に伴い、総括コーディネーターのうち、「企画」及び「研修」担当は協議会委員として参画し、「事務」担当は事業全体の運営及び実施を担う役割を担ってもらう。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

・地域クラブ活動の運営にあたり、部活動総括コーディネーター（事務）を1名配置し、関係者間の連絡調整体制を整備した。コーディネーターは、学校、運営団体、指導者、市教委との日常的な連絡窓口として、活動に関する情報の集約や共有を担った。また、指導者研修や各種会議等に関する事務調整を行い、事業の円滑な運営を支えた。これにより、担当指導主事等が企画立案した取組を継続的に推進できる体制が整うとともに、委託業者や学校との調整、生徒・保護者への対応など運営面の強化につながり、地域クラブ活動を安定的に実施する基盤づくりに寄与した。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

・R7は地域クラブ活動の円滑な運営を目的として、『部活アプリBUKATSU MANAGER 』（アスフィール株式会社）を活用した運営体制の効率化に取り組んだ。具体的には、活動情報の一元管理、参加申込や連絡調整のデジタル化、外部指導者・生徒・保護者間の安全な連絡手段の整備を進めた。これにより、事務負担の軽減や情報伝達の迅速化が図られ、運営主体間の役割分担が明確になった。また、活動状況の可視化が進み、指導の質の向上や参加者の安心感の醸成にもつながった。今後は、運用状況を検証しつつ、持続可能な地域クラブ活動の実現に向けた改善を継続していく。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

仕様書に基づき、運営体制・指導体制・安全管理体制を明確に整備し、安全性の確保を図っている。指導者の配置要件や研修受講、保険加入、事故・災害時の対応手順等を定め、計画的かつ適切な運営が行われる体制を構築した。また、市教委による定期的な巡回指導や実地確認を通じて、活動状況や指導内容の点検・助言が行われており、継続的な安全管理の向上につながっている。さらに、運営団体は学校および市教委と密な連絡・連携を図り、情報共有や課題対応を迅速に行っている。とりわけ、学校と地域クラブとの懸け橋として調整役を担うことで、学校教育との円滑な接続と、生徒が安心して参加できる活動環境の確保を実現している。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

地域クラブ活動におけるトラブルや事故への対応については、仕様書に基づき、あらかじめ対応方針と手順を明確に定めている。活動中に事故やけがが発生した場合は、指導員が速やかに応急対応を行うとともに、学校および市教育委員会へ報告し、保護者と連携した適切な対応を行う体制を整えている。また、トラブルや苦情が生じた際には、運営団体が窓口となり、事実確認を行った上で関係機関と情報共有し、再発防止に向けた対応を講じる。災害や気象状況等による緊急時についても、「堺市部活動ハンドブック」の基準に準じて活動中止等の判断を行うなど、仕様書に沿った一貫した対応により、安全確保を図っている。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

・指導者に対して、資質向上のための研修をモデル事業開始前に実施。（堺市部活動ハンドブックを活用）
・地域クラブ指導に従事する指導者等に対する動画研修資料を作成（現在2動画）。
・人材育成の仕組みや内容、技術・指導力等について段階に応じた研修体系（堺クオリティ）の検討を開始
・堺市教育スポーツ振興事業団主催の研修参加について周知啓発。
・セレッソ大阪による「サッカー教室」を実施。勝矢寿延アンバサダーによる生徒及び指導者への研修会を実施。

取組の成果

・指導者51名を確保した。
・指導者に対して、堺市部活動ハンドブックを活用した資質向上のための研修をモデル事業開始前に実施した。
・地域クラブ指導に従事する指導者等に対する動画研修資料を２つ作成することができたので、今後も効果的に活用していく。
・セレッソ大阪による「サッカー教室」を2年連続で実施することができた。今後もプロチーム等との連携を強化していく。

今後の取組における課題

・堺シュライクスの選手による指導は、地域クラブ活動が中心となったため、「軟式野球指導教室」は開催を見送った。
・関西大学と連携した練習動画の分析や、分析結果を動画や文書等によってフィードバックする取組は、対象校の調整が難航したため、今年度の実施は見送った。

課題への対応方針

・日本製鉄堺ブレイザーズ、セレッソ大阪、堺シュライクスなどプロチームとの連携のほか、アスレティックトレーナー等によるトレーニング指導や、ラウンドワンによるボウリング指導など、専門的な指導ができる人材による指導機会を一層充実させる。
・関西大学との練習動画指導は次年度「ソフトテニス」で実施する予定である。
・動画研修資料は全4シリーズの構成で計画しているが、単なる視聴にとどまらず、テスト形式を導入するなど、研修成果を可視化するための資格取得形式のあり方について検討する予定である。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

・日本製鉄堺ブレイザーズ、セレッソ大阪、堺シュライクスなどプロチームとは連携を密にしており、どうすれば連携して実施できるかをお互い意見交換する機会を設けている。

・アスレティックトレーナー等を擁している関係団体（大阪リゾート＆スポーツ専門学校、ルネサンス、アスリートサポートジャパンなど）と連携を密にしており、トレーニング指導ができる人材の確保を行っている。

指導者研修の内容

研修名	部活動等指導者育成研修（動画）
講師	桃山学院大学　中村 浩也 教授　他
研修内容	●こどもの権利を守る ●安心・安全を脅かす行為:マルトリートメント ●セーフガーディング ●安心・安全を脅かす行為：安全管理面 ●部活動等安全チェックリスト ●部活動指導者としての心構え

指導者研修受講者の声

兼職兼業教員学校
教員と地域クラブ指導者の両立という立場から、役割と責任を改めて整理できた。こどもの権利を中心に据えた指導が、学校と地域をつなぐ基盤になると実感した。

プロ選手（競技経験者）
これまで重視してきた成果や勝敗だけの視点では不十分だと気付かされた。競技力向上と同時に、選手の尊厳と安全を守る指導こそが本質だと理解できた。

民間会社勤務
企業で培ったコンプライアンスやリスク管理の考え方が、地域クラブ指導にも強く求められていると感じた。組織的にこどもを守る視点の重要性を学んだ。

部活動指導員
日々の声かけや態度が、生徒の安心感や自己肯定感に大きく影響することを再認識した。セーフガーディングを意識し、より丁寧な関わりを心掛けたい。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

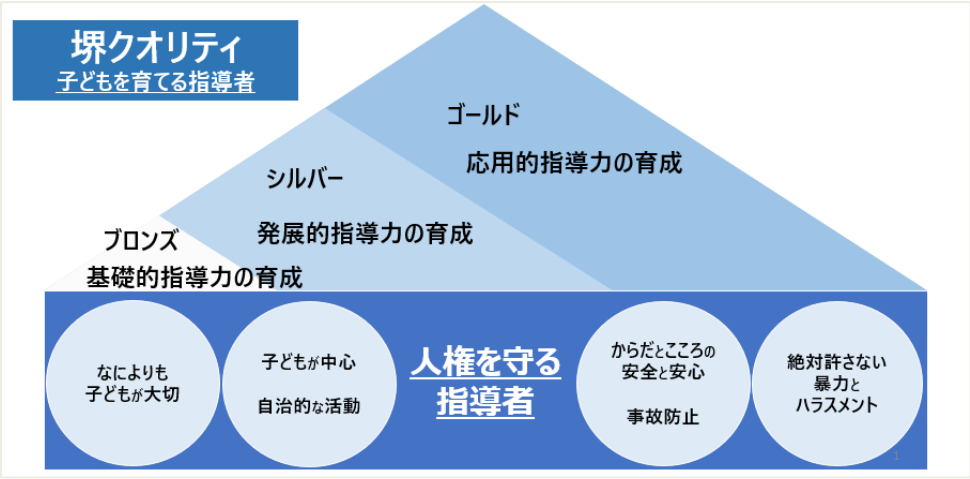
取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

・指導者は人権を守るというセーフガーディングポリシーのもと、人材育成の仕組みや内容、技術等指導力等について段階に応じた研修体系を構築することで、指導する際に必要となるライセンスの認定を行う「堺クオリティ」と称する制度を立ち上げていく予定である。（現在は準備中のため有資格者なし）

指導者総数	51 人
資格所持指導者数	0人
本年度資格を取得した指導者	0人



出典：堺市立中学校における部活動地域連携・地域移行の取組状況等報告書

平日・休日の一貫指導に関する取組

・本市では兼職兼業教職員、部活動指導員の活用を主要取組としていることから、平日・休日の一貫指導に関する取組はおおむねできている。
・また、民間の方やプロチームについては、ボランティア（外部指導者）としての平日部活動への従事等も担っていただくなど、一貫指導に視点を置いた取組をしている。
・休日地域クラブ活動の練習日程等については、『部活アプリ IBUKATSU MANAGER 』（アスフィール株式会社）を活用した情報共有を行っている。
・動画研修資料は教職員、部活動指導員、ボランティア（外部指導者）、地域クラブ活動指導者の全員を視聴対象としており、部活動、地域クラブ活動ともに「たいせつにしたいことは同じである」という姿勢で指導に臨めるようにしている。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

〈イベント〉日本製鉄堺ブレイザーズによる「バレーボール教室」
（公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団事業）
〈イベント〉セレッソ大阪による「サッカー指導教室」
〈イベント〉（株）ラウンドワンジャパンによる「スポーツボウリング教室」
〈指導者派遣〉大阪医療福祉専門学校から部活動指導者講習会に講師派遣
〈指導者派遣〉（株）ルネサンスのトレーナー等を中学校に派遣
〈指導者派遣〉㈳AthleteSupportJapanのトレーナーを中学校に派遣
〈大学等連携〉関西大学及び大阪リゾート＆スポーツ専門学校と連携した
アスレティックトレーナーによる指導

取組の成果

・「堺市の資源活用」というキーワードのもと、堺市にゆかりのある民間企業等を中心に連携を強化したイベントや指導者講習会を実施することができた。
・イベントについてはいずれも公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団、スポーツ推進課と綿密に連携調整を行ったうえで、安全・安心のもと実施することができた。生徒のアンケート結果もほとんどが肯定的なものであった。
・イベントを実施することで部活動地域連携・地域移行について生徒・保護者・教職員・市民・関係団体に対して広く周知することができた。

今後の取組における課題

・イベント等を実施する新たな民間企業等の発掘。
・トレーナー等の指導の持続可能性。
・受益者負担のあり方の検証。

課題への対応方針

・今後もイベントを実施することによる指導者や民間企業等のさらなる発掘や広報活動を推進していく。
・トレーナー等による指導の持続可能性について検証していく。
・**受益者負担**を徴収した「ボウリング教室」の実績をもとに費用のあり方を検証。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

・学校施設開放運営委員会の委員長として、学校、地域クラブ、市教委との連携等に従事している校区がある。

まちづくりと連携した取組

・堺市自治連合協議会において「堺市における部活動のあり方の課題整理と解決に向けた具体的取組について」の情報共有を行った。
・堺市自治連合協議会からは、「地元のこどものためになる取組にしてもらいたい」という考えのもと、指導者の質や、部活動及び地域クラブ活動での格差解消に向けて工夫してもらいたいという意見があった。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

・堺市、和泉市、泉大津市、高石市、忠岡町の4市1町＝泉北地区で定期的な連絡協議会を実施し、域内の取組について交流を深める。

取組の成果

・政令指定都市である堺市と、それ以外の自治体との交流は普段なかなか実施されないが、部活動地域連携・地域展開事業における連絡協議会により、取組状況をそれぞれが情報交換することができた。

今後の取組における課題

・担当指導主事が多忙のため、4市1町が集合できる日程の調整が困難であった。

課題への対応方針

・オンライン会議の開催を検討する。

市区町村等を越えた取組

・堺市、和泉市、泉大津市、高石市、忠岡町の4市1町＝泉北地区で定期的な連絡協議会を実施

【これまでの経緯】

第1回：令和4年11月15日（堺市開催）
・初顔合わせ　・取組状況等共有

第2回：令和5年2月20日（堺市開催）
・部活動指導員の任用及び活用方法、部活動アンケート結果等共有

第3回：令和5年5月26日（堺市開催）
・校長会との連携等について意見交換
・地域連携推進計協議会等の設置状況について情報共有

第4回：令和5年11月10日（和泉市開催）
・拠点校部活動実施について先行事例紹介
・協議会の立ち上げ、大学との連携について事例紹介

第5回：令和7年3月7日（堺市開催）
・取組状況等共有

第6回：令和8年2月（書面開催）
・取組状況等共有

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

・ボウリング初心者の小中学生又興味がある小中学生、遊びでは無くスポーツとしてチャレンジしてみたい小中学生を対象。
・既にマイボールを持って本格的に経験のある小中学生も参加は可能だが、イベント内容は初級として進める。
・ラウンドワン堺店、ラウンドワン中央環状店でそれぞれ24名程度を上限に募集する。





取組の成果

・実施回数：全7回（6月～12月）
・参加した児童・生徒数：合計105名
・参加者の満足度：100%（とても楽しかった・楽しかったの割合）
・中学校にボウリング部が出来たら入りたいと思う：68.6%

今後の取組における課題

・ラウンドワンジャパンと市教委の連携による「ボウリング部（地域クラブ活動）」を立ち上げる予定であったが、指導者の位置づけや部員募集の調整がつかず、今年度は小学生（4年生～6年生）も対象としたイベント実施をすることにした。
・アスレティックトレーナー等を活用し、「運動能力を伸ばすトレーニング」をプロ選手や民間企業と連携して実施する予定であったが、学級閉鎖等が重なり、開催を見送った。

課題への対応方針

・本市における「認定地域クラブ」の制度構築の整備後、「ボウリング部（地域クラブ活動）として活動する方向性でラウンドワンジャパンと協議済み。
・性別や障害等の有無に関係なく参加できるユニバーサルスポーツとしての設立をめざす。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

・当初は「ボウリング部（地域クラブ活動）」を立ち上げ、おいて受益者負担を実施し、費用負担のあり方等について検証を行う予定であったが、結果的にイベント形式（参加費200円徴収）の実施となったため、検証ができなかった。

今後の取組における課題

・受益者負担のあり方、経済的困窮世帯への支援等について、検討を進めていく必要がある。

課題への対応方針

・すでに受益者負担を適用している総合型地域スポーツクラブとの連携を試行実施することで、参加費用負担の現状把握や、「認定地域クラブ」制度構築の際に設定する持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算を行う。

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

・学校部活動にかかわるアンケート結果

①調査目的

部活動地域連携・地域展開の在り方や方向性の検証を行うため、各小・中学校における児童生徒、保護者、教職員の思いや考えなどを把握することを目的とする。

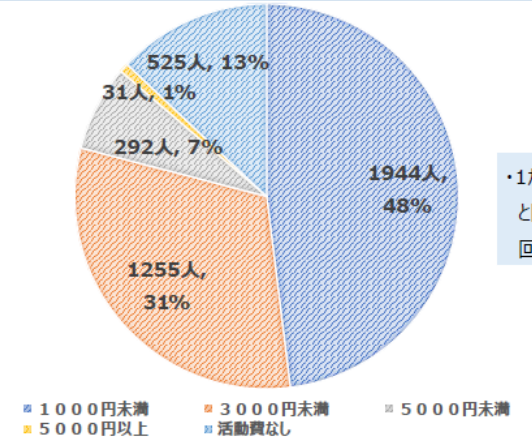
②調査対象及び期間

・全小学校の小学6年生児童及びその保護者：R5.6/20～7/20
・全中学校の中学1年、2年生徒及びその保護者： R5.6/20～7/20
・堺市立中学校教職員（管理職除く） ： R5.7/20～8/24

③調査方法

・Microsoft Formsを利用して児童生徒は自身の端末、保護者はスマートフォン等で回答

○保護者：「地域クラブ活動」で活動する場合、１か月あたりの活動費（活動道具等に係る費用は除く）はどの程度が適切であると考えるか。



・1が月あたりの活動費について1000円未満と回答した保護者が48%、3000円未満と回答した保護者が31%であった。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

本市では、「学校部活動の教育的意義や良さ等を継承しつつ、子どもや保護者・教職員のニーズを反映させ部活動地域連携・地域展開を進める」方針で検討を進めている。アンケートの結果、子どもには「学校部活動に参加したい」「スポーツ・文化芸術活動を仲間と交流しながら楽しみたい」というニーズがある。また、保護者には「中学校で活動してもらいたい（安心安全・経費負担等）」というニーズがある。これらのニーズに応えるためには、現状の学校部活動の内容を踏襲しながら、学校施設を使用できる地域移行のあり方を構築する必要がある。そこで、「学校施設開放事業」を活用した取組を実施している。

取組の成果

休日の学校部活動を試行的に地域クラブ活動として「学校施設開放事業」に登録することで、子どもや保護者にとって一番なじみがあり、自宅から近いなど安心安全な学校施設を活動場所として無償利用することができた。また、子どもは平日の学校部活動とのギャップを感じずに実施することができた。

今後の取組における課題

・「認定地域クラブ」制度において新たに既存の地域クラブを認定する場合の「学校施設開放事業」への登録手続き等の整備。

課題への対応方針

・「認定地域クラブ」制度を構築する際に、「学校施設開放事業」への登録を見据えた対応ができるようにする。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

・「学校施設開放事業」への登録は委託業者が行うことで、指導者等の負担を軽減している。

用具使用・管理等における取組

・現時点は学校の用具等を共用で利用している。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○令和7年度の地域クラブ活動は10校16部活動で実施した。（R6比：**3校7部活動増**）

○1つの地域クラブに複数の種目を登録した活動や、今後の少子化対策を見据えて3つの地域クラブを合同（**拠点校型**）で実施することにも取り組むことができた。

○堺シュライクスのプロ選手が継続的に指導者として従事できる体制の整備できた。

○**総括コーディネーター**と連携した活動ができた。

○**学校施設開放事業**については安定して活用できることが確かめられた。

○地域クラブ指導に従事する指導者等に対する**動画研修資料**を新たに作成することができた。

○「堺市の資源活用」というキーワードのもと、**堺市にゆかりのある民間企業等**を中心に連携を強化したイベントや指導者講習会を実施することができた。

○とくに、**アスレティックトレーナー等による指導**は、部活動にも地域クラブにも有効であることがわかった。

○改革実行期間における本市の推進計画に位置づく、「**堺市における部活動のあり方の課題整理と解決に向けた具体的取組について**」及びリーフレットを作成した。

●成果の評価

○年度当初に計画したもののうち、総括にまとめたものはおおむね順調であったが、計画したもののうまくいかなかったものもあった。

○面的・広域的な取組として、泉北地区の取組状況を集約し、大きな方向性を整理することを検討していたが、なかなか集まることができずにいた。今後はオンライン会議を活用し、定期的に情報交換等をしていきたい。

○「ボウリング部（地域クラブ活動）」による参加費用負担の支援等の検証ができなかった。

○部活動のあり方についての多面的に検討し、整理を進めていくことを昨年度計画していたが、今年度末に「堺市における部活動のあり方の課題整理と解決に向けた具体的取組について」を作成することができた。また、生徒保護者に周知するためのリーフレットを作成することができた。

●今後に向けて

○地域クラブへ移行する手立ての確立に向けて3年間試行実施をしてきてきた中で、学校施設開放事業を活用した取組は効果的であることが確かめられてきた。

○今後は地域クラブへ移行する種目を休日の活動状況に応じて精選し、少子化やこどものニーズに応じた地域クラブの集約化・拠点化のあり方について検証していく。

○参加費用負担の支援等については、困難な課題であるが、次年度はすでに受益者負担を適用している総合型地域スポーツクラブの連携により、あり方の検証を進めていきたい。

○「堺市における部活動のあり方の課題整理と解決に向けた具体的取組について」に基づき、今後の部活動地域連携・地域展開事業を推進する予定である。

2.実証内容と成果②

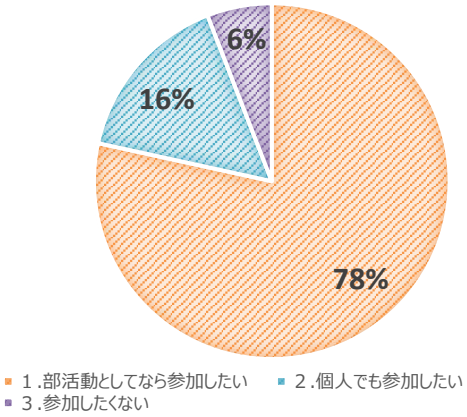
スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

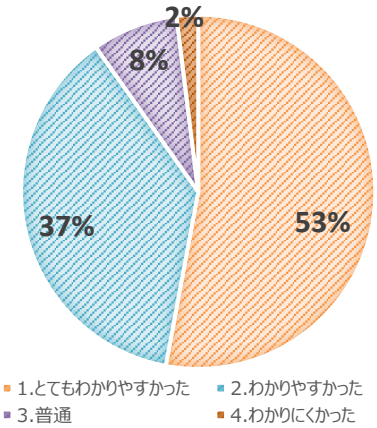
●アンケート結果（セレッソ大阪サッカースクール）

「堺市の資源活用」というキーワードのもと、堺市にゆかりのある「セレッソ大阪」に指導イベント実施を依頼した。4校から51名（1,2年生）の参加があり、セレッソ大阪から3人のコーチが派遣された。

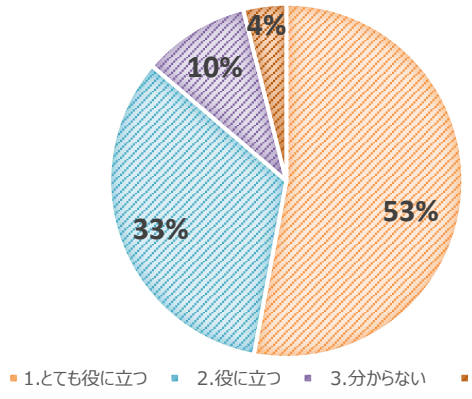
Q.次も参加したい？



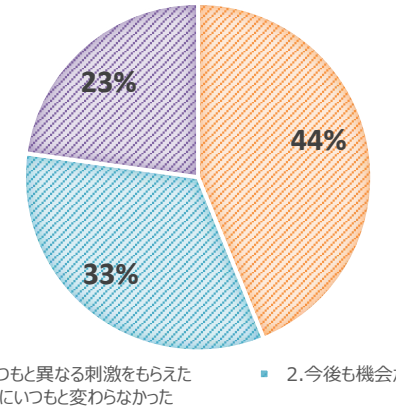
Q.わかりやすかった?



Q.役に立つ？



Q.合同練習どう?



●参加者の声

【参加生徒】

・基礎がとても重要だとわかる練習だと思いました。
・今日はボールをとめることの大切さがわかったので良かった。
・やってわかりやすくてたのしかった。
・とてもためになりました。また参加していきたいです。
・今日はとても勉強になり、今後も機会があれば参加したいです。

【引率教員】

・こどもが自ら挑戦する姿が増え、成長を実感できる場でした。
・個性を尊重しつつ力を伸ばす指導で安心して任せられました。
・明るく前向きになれる環境で生徒が意欲的に参加していました。
・練習の意図が明確で、自主練にも応用しやすい内容でした。
・最新の指導法を取り入れており、学びが多い機会でした。



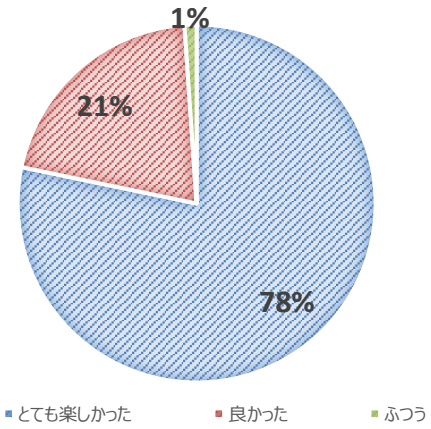
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

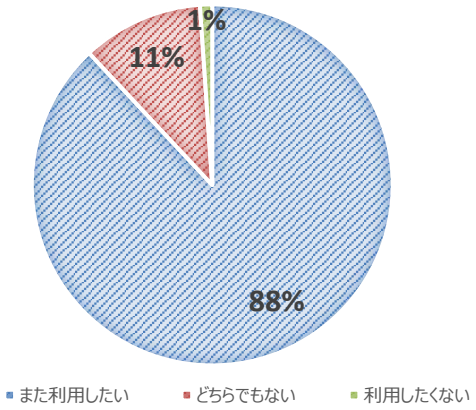
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（ラウンドワンジャパン「ボウリング体験会」）

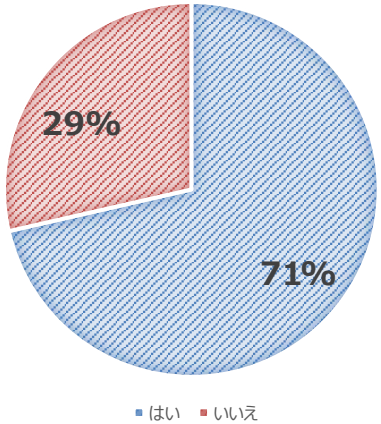
Q.やってみたどうだった？



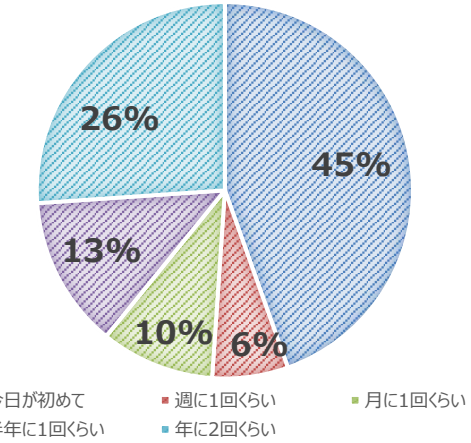
Q.また利用したい?



Q.中学に「ボウリング部」あったら入る？



Q.ボウリングの経験は?



●参加者の声

【参加生徒】

・上手く投げれて嬉しかった。またやりたい。楽しめた。

・すごくいい思い出になりました。またいっぱい練習して上手になれるように頑張ります。

・とても楽しかったです。ありがとうございます。

・全体的には良かったと思います。とても面白かったです。もっと細かな基本を学びたいです。

・ものすごく楽しくて良かった！成功したらすごい！とか拍手とかをしてくれたのがとても嬉しかった！

・また行きたいと思った！次はいっぱいピンを倒したい！

・ストライク出来る様に頑張りたいです。めっちゃ内容は楽しかったです。

・スタッフも優しくてもっとうまくなりたいと思いました。

・もう少し説明を短くして練習時間を長くして欲しい。それでも楽しかった。

・ボウリングを教えてもらえる機会はなかなかないので、とても嬉しかったです.

・投げる時に力が入ってしまうので、力を入れずに投げる方法をまた教わりたいです！！

・悔しかったけど、みんなが励ましてくれて嬉しかった。

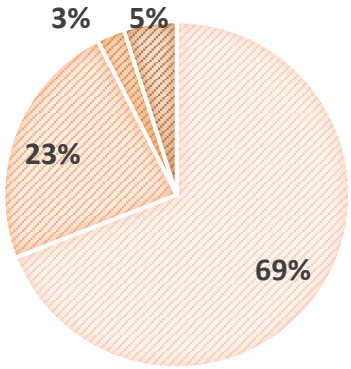
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

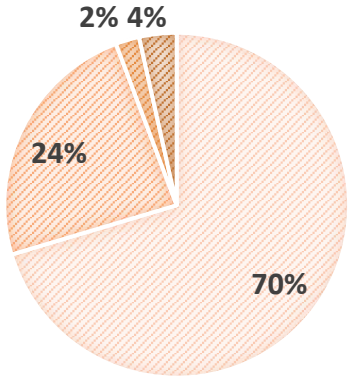
●アンケート結果（アスレティックトレーナー等を活用したトレーニング指導）

Q.やってみたどうだった？



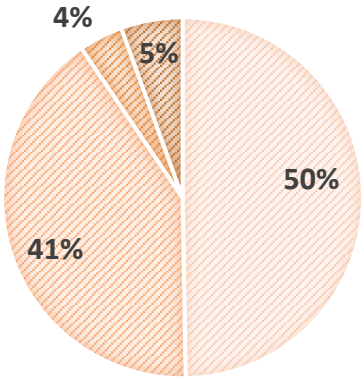
楽しかった（学ぶことが多かった）
どちらかといえば楽しかった（学ぶことが多かった）
どちらかといえば楽しくなかった（学ぶことは少なかった）
楽しくなかった（学ぶことは少なかった）

Q.活かすことができる?



活かすことができそうだ
どちらかといえば活かすことができそうだ
どちらかといえば活かすことはできそうもない
活かすことができそうもない

Q.アスレティックトレーナーに部活動指導協力してもらいたい？



部活動に協力してほしい（来てほしい）
どちらかといえば部活動に協力してほしい（来てほしい）
どちらかといえば部活動に協力しなくてよい（来てほしくない）
部活動に協力しなくてよい（来てほしくない）

●参加者の声

【今後、知りたいことや学びたいこと】

・バランス力UPする方法、ジャンプ力UPの方法。

・とくに痛いときにどうストレッチすればいいか

・こかん節の動かし方が知りたい（走る時の）

・脚の負荷を少なくする方法を知りたい

・膝の負担をやわらげるようなストレッチを知りたい

・けがをしたときのストレッチも教えてほしい

・もう少し来てほしい。楽しかった。

・1人でもできるストレッチ

・骨のしくみ（構造）

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●顧問への事前アンケート結果 （トレーナー指導）

ID	顧問部活動	今回の取り組みに期待する効果を選んでください。	今回の取り組みで取り入れたいテーマがありましたら選んでください。
1	水泳	柔軟性向上;体幹強化;瞬発力向上;下半身強化; 心肺機能向上;姿勢改善;バランス力向上;	睡眠の質向上;脳の活性化;疲労回復;コミュニケーション能力;
2	柔道	傷害予防;	疲労回復;
3	男子バスケットボール	柔軟性向上;傷害予防;下半身強化;体幹強化; 瞬発力向上;バランス力向上;	運動後に必要な栄養素;疲労回復;
4	卓球	体幹強化;バランス力向上;	脳の活性化;
5	吹奏楽	心肺機能向上;	コミュニケーション能力;
6	女子バスケットボール	体幹強化;柔軟性向上;バランス力向上;	運動後に必要な栄養素;コミュニケーション能力;
7	バレーボール	身体の動かし方;瞬発力向上;傷害予防;	睡眠の質向上;コミュニケーション能力;疲労回復;
8	野球	瞬発力向上;下半身強化;柔軟性向上;傷害予防;	運動後に必要な栄養素;疲労回復;
9	陸上競技	姿勢改善;傷害予防;体幹強化;	疲労回復;コミュニケーション能力;
10	バドミントン	瞬発力向上;	コミュニケーション能力;
11	ソフトテニス	バランス力向上;下半身強化;体幹強化;柔軟性向上; 傷害予防;瞬発力向上;姿勢改善;心肺機能向上;	疲労回復;コミュニケーション能力;脳の活性化;睡眠の質向上; 運動後に必要な栄養素;

●顧問への事後アンケート結果 （トレーナー指導）

ID	担当している部活動	今日のトレーニング講座の時間帯には何をしていましたか （複数選択可能）	今回のトレーナーによる部活動のサポートをどのように評価しますか
1	バドミントン	学校に関わる仕事（部活動以外）;	とても助かった（とても良かった）
2	女子バスケットボール部	部活動に関わる仕事;	助かった（良かった）
3	女子バスケットボール部	部活動に関わる仕事;	あまり助かっていない（あまり良くない）
4	卓球部	学校に関わる仕事（部活動以外）;	あまり助かっていない（あまり良くない）
5	陸上競技部	学校に関わる仕事（部活動以外）;部活動に関わる仕事;	助かった（良かった）
6	陸上競技部	興味があったので，トレーニングを拝見させていただきました。;	助かった（良かった）
7	バドミントン	部活動に関わる仕事;	とても助かった（とても良かった）
8	バレーボール	一緒にやりました;	助かった（良かった）
9	水泳部	部活動に関わる仕事;	とても助かった（とても良かった）
10	男子バスケットボール部	部活動に関わる仕事;	とても助かった（とても良かった）

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【地域クラブの指導】



【セレッソ大阪による複数校合同サッカー教室】



【ラウンドワンによるスポーツボウリング】



【アスレティックトレーナーによる複数部活合同指導】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年		令和6年	令和7年
・検討開始	・学校開放利用検討 ・モデル校選定開始	・アンケート実施及び分析	・地域クラブ活動開始 ・庁内委員会設置	・取組状況等報告書策定 ・シンポジウムの開催	・具体的取組作成 ・協議会設置準備

●ステークホルダー
・学校保健体育課、地域教育振興課、スポーツ推進課

●経過
・R4.6月～関係課打合せ

●実施にあたって生じた課題
・どう進めていくのかという見通しや主担となる課が定まらない中で会議を行ったため、議論の空転が生じた。

●実施内容、工夫した点 等
・R4.8月～学校保健体育課が主担として見通しやビジョンを作成した。
・原案を基に関係課が意見交流して見通し等案を作成した。
・胸襟を開いて会議を続けたので関係性が構築できた。

●ステークホルダー
・学校保健体育課、地域教育振興課、教育委員会総務課、スポーツ推進課、文化課、各モデル校及び委託業者

●経過
・R5.10～モデル事業開始
・R5.12～庁内委員会設置

●実施にあたって生じた課題
・モデル実施日が決まらなかったり必要な書類がなかなか提出されないことがあった。
・庁内委員会に諮る内容や資料の原案作成に苦慮した。

●実施内容、工夫した点 等
・モデル校と委託業者の仲介役としてさまざま対応した。

●ステークホルダー
・市長部局、総括コーディネーター

●経過
・R6.10～取組状況等報告書策定
・R7.1～シンポジウムの開催

●実施にあたって生じた課題
・取組状況等報告書とめざす方向性の発出やシンポジウム開催は本事業としてはじめて広く市民等に周知するものであるこから、内容等について何度も確認点検がなされた。

●実施内容、工夫した点 等
・総括コーディネーターにそれぞれの担当で専門的な知見等から指導助言を受け、内容を充実させた。

●ステークホルダー
・市長部局、総括コーディネーター

●経過
・R7.5～具体的取組作成
・R7.8～協議会設置準備

●実施にあたって生じた課題
・具体的取組は本事業を推進する際の計画的な位置づけになることから、何度も確認点検がなされた。

●実施内容、工夫した点 等
・記載内容をできるだけわかりやすく、簡潔にすることを心がけた。
・市長、教育長をはじめ、関係所管課等の意見を的確に反映するようにした。
・まずは骨子案から作成し、校長会等に内容を示したうえで、素案⇒案⇒確定版を示すなど、丁寧な説明を行った。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

<table>
<tr><th></th><th>「こども」視点</th><th>「学校」視点</th><th>「地域」視点</th></tr>
<tr><td>令和8年度</td><td>・ハンドブック改訂
・堺クオリティ研修構築</td><td>・標準活動時間の試行実施
・部活動指導員による拠点校部活動指導</td><td rowspan="2">・休日部活動を段階的に「認定地域クラブ活動」に切り替え

・専門的な指導機会の拡充</td></tr>
<tr><td>令和9年度</td><td>・堺クオリティ研修実施</td><td>・標準活動時間の実施
・区内拠点校部活動試行実施等</td></tr>
<tr><td>令和10年度</td><td colspan="3">協議会において中間評価（必要に応じて取組再検討）</td></tr>
<tr><td>令和13年度まで</td><td colspan="3">【改革実行期間（後期）】
・休日活動している部活動についてはすべて「地域クラブ活動」に切り替え、市内を複数エリアに分割し、外部で運営（指導者勤怠管理、報酬支払、指導者配置等）を行う。</td></tr>
</table>